

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年 3月 4日

事業所名： 呉本庄つくし園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> ・工夫しているが無理がある ・構造化のため狭いところはある ・廊下や空き部屋を活用し、各クラス工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援のために必要な環境調整をしつつ、子どもさんが活動しやすいよう、配置や導線を工夫していきたい
	2	職員の配置数は適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> ・増員できれば増員した方が良いと思う ・定数より多く配置している 	<ul style="list-style-type: none"> ・声を掛け合い、事務や相談の職員なども協力していきたい
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			<ul style="list-style-type: none"> ・天候などにより、園庭に出れない場合は、室内での活動場所や活動内容を変更したり、活動場所の人数を調整しながら、使える空間を工夫していきたい ・子どもさんたちが安全に過ごせる環境を常に見直し、整備していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、丁寧に掃除をしている ・危険な場所はその都度、見直しをして改善するようにしている ・冬や雨の日は、子供たちが廊下を裸足で過ごすのは寒いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になることがあるときには、声を出し合い、共通認識を持つことで、職員全体で環境整備に努めていきたい ・子どもさんたちが快適に過ごせるよう、室内の環境に配慮していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みを考え、結果について共有し、必要があれば更に改善することを繰り返している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、話し合いの機会を持ち、意見を申し合えるようにしていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の評価から、意向を確認し改善するよう努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、意見を真直に受け止め、職員で協議し、意向等についても検討していく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・配布、ホームページ等で公表している 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、今年も保護者の方への資料配付、ホームページでの公開を行っていく
	8	第三者による外部評価を行ない、評価結果を業務改善につなげているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない ・外部評価を検討すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価は実施していない。今後の検討課題である
適切な支援の提供	9	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修、外部研修の参加、園内で研修を受けている 	<ul style="list-style-type: none"> 内部・外部研修に職員自らが積極的に参加し、専門性を高めていく
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方に「保護者の方からの情報シート」を記入していただき、それをもとに、子どものアセスメントを行ない、個別支援計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、保護者の方としっかりと話ができる時間をとり、保護者や子どものニーズをくみ取る力や子どもの発達状況や特性を理解し、行動の分析ができるようスキルアップに努めていく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの機会を設けている ・発達検査を実施している 	
	12	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援については、項目としてはあるが、保護者の方からの要望があまりない ・幼児なので地域参加が難しい面もあるかもしれない ・支援計画会議を行い、発達支援、家族支援、地域支援の内容について検討し、家庭で取り組めることも計画に記入するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を全員で把握し、共通認識をもって、誰が関わっても同じ支援ができるようにしていく。
	13	個別支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にクラスの職員と支援計画の内容を確認しながら支援を行なっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで話し合い、子どもさんの状態に合わせた内容を工夫している

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	14	活動プログラム立案をチームで行っている	○		・季節、育てたい力、子どもさんたちの興味などをいろいろ加味し、考えていく	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・子どもさんの状態を考え、集団への入り方や支援方法を考えていく	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、個別支援計画を作成している	○	・個々の活動も多いが、子どもによっては、小集団で買い物学習をしたり、簡単なゲームをしたり、クッキングや造形活動をしたりと集団活動を行なっている。	・その日の流れや役割、注意点などを共通認識として持っているようにしている	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	・2週間ごとの職員の役割分担表を作成し、それに基づいてその日の活動内容に応じ、細かい分担について確認している	・そのつど、その日の出来事や支援についての話し合いをすることで、適切な支援、より良い支援をさらにめざしていく	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	・欠勤やバスの添乗でいない職員に対しては、メモ等で共有するようにしている。	・引き続き、支援終了後には、日々の振り返りや全職員で共有すべき点について、終礼などの中で行っていく	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	・毎日ケース記録を付けている	・引き続き、毎日ケース記録を行い、会議等を通して、子どもの評価・取り組み・支援の内容を検討し、支援につなげていく	
	20	定期的モニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		年に3回、個別支援計画会議（モニタリング）を行ない、計画の見直しをしているが、必要に応じて、計画も見直し、適切な支援が行えるようにしていく	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて、関係機関との連携を行っている 今後も引き続き、必要に応じて行っていく	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			・対象者がいない、該当園児なし ・必要に応じて対応している	・現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			・対象者がいない、該当園児なし	・現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・移行支援が必要な時には、子どもさんの情報提供のために書類を作り、情報共有することで相互理解を深めるようにしていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・教育委員会や就学先の学校への情報提供のための書類を作り、子どもさんの状態や支援内容について相互理解を図るようにしている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・ほかの事業所や専門機関、外部講師によるコンサルテーションなどと連携し、助言や研修を受けている
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・地域の保育園との交流を行なっている	・近くの保育園との交流保育をしている遊びを通して交流がはかれるよう工夫していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・担当者が参加している	・子ども部会やケアマネ部会に参加し、他事業所との連携や情報共有を引き続き行なっていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・おたよりや個別指導の時、子どもの状況を保護者の方に伝えるようにしている。	・懇談や毎日のおたより、保護者研修会を通して、発達の状況や課題について共通理解が持てるよう引き続き行っていく
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・ペアトレは行っていないが、保護者研修を行ない、関わり方などを伝えている ・保護者研修を行なっているが、プログラムに沿った支援は行っていない ・必要な保護者には個別に対応している ・家庭での対応について、保護者と話をしている ・個別指導などで、「家庭での取り組み」として一緒に考えながらすすめている	・ペアトレは行っていないが、保護者研修会の中で、家庭での取り組みなど、対応力の向上に向けた研修を行っている

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・年度初めの療育説明会の中で、説明を行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○		・懇談の中で対面で説明を行い、保護者の方の同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・おたよりや個別指導で保護者からの相談を受けた場合、すぐに対応するようにしている。必要に応じては上司や相談支援専門員に相談し、指示を受けている。	・必要に応じてお便りや電話、対面で相談を受け、その都度、一緒に対応を考えたり、助言をしている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・保護者会の場を提供している	・今後も、園内で保護者会が開催できるよう場所の提供や、相談を受けたり、おもちゃなど道具の貸し出しを行うことで、協力していきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			・その都度おたより、電話、対面での話などを行うことで、迅速に対応している
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・園だよりを毎月発行し、その月の行事や子どもたちの様子などを載せて、園での様子が分かるようにしている
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			・情報の管理の徹底をしていく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・お知らせは紙面配布やアプリで伝えるようにし、必要な情報などは、書いて伝えるようにしている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・コロナ後少しずつ開放している ・コロナが開けて、範囲は限定したが、夏まつりを開催し見学などを受け入れている ・夏まつり等の行事を再開した	・今年度は、夏祭りを開催し、多くの方に参加していただいた。地域の方にも参加していただきけるよう、今後も行事等を開催していきたい
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルを策定していることを保護者に伝え、いつでも閲覧できるようにしている ・園だよりで避難訓練を実施している様子を伝える ・月一回避難訓練を実施している	・各種マニュアルを作成しており、いつでもだれでも見られるように掲示している ・必要に応じて見直しを行い、対応できるように体制作りをしている
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・火災、地震、水害などを想定し避難訓練を実施している	・毎月実施しており、その時々で、火災・地震・土砂災害などを想定して行っている ・消防への通報訓練も実施している
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・服薬時には与薬カードに予め記入していただいている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・指示書を提出してもらい、対応している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事例集の作成はしていないが、ヒヤリハット事例は朝礼、終礼等で確認し、回覧もしている ・終礼や回覧等で情報を共有し、改善方法も考えている	・気になることに対しては、そのつど書類を作り、全体に回覧することで、情報を共有し、職員全体の意識を高めていく ・定期的に、危険予測、危険箇所の確認を行い、全職員で情報の共有、確認をしていく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・全職員で研修を実施している	・毎月虐待防止委員会を開き、不適切な対応はないか園全体でチェックし、適切な対応を心掛けている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		・身体拘束はない ・指針、必要時の対応については手順等を作成している	・必要な場合は、保護者へ説明し、同意を得たうえで行うようにしている

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年 3月 4日

事業所名：児童デイサービス つくしんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数に対してのスペースは確保されている。物理的構造化により、狭いと感じる所もあるが、動線がとれるように工夫をしている。	活動内容によって、各スペースの大きさを工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な支援ができる職員体制をとっている。	今後も、基準に沿った職員体制がとれるように努めていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達が自分で何をするのか分かって活動できるようにするという目的のもと、生活空間、活動内容を構造化している。	今後も、子ども達にとってわかりやすい環境づくりに努めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	毎日の清掃に加え、感染症対策として、引き続き遊具や課題等への消毒もその都度行っている。現在、水道の使用ができなかったり、トイレの機能の一部が使えない状況が続いている。市の施設内にあるため、工事・修繕が市を通しての発注となるため、事業所として市に再三要望を出しているが、なかなか工事が進まず、利用者・事業所としても不便な思いをしている。水の使用ができないため、ウェットティッシュやアルコール等を使用し、衛生管理ができるよう工夫をしている。	今後も感染症対策、衛生管理を徹底していく。できるだけ早く修理をしてもらえるよう、市に働きかけていく。今後も、できる限りの工夫をして、衛生管理ができるようにしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○		職員全員で具体的な取り組みを考え、結果について共有し、必要があれば更に改善することを繰り返し行っている。	今後も、話し合いの機会を持ち、意見を出し合えるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		事業所評価や意見をもとに話し合いを行い、業務改善につなげている。	今後も、意見を実直に受け止め、職員で協議し、対応についても検討していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○		HPIにて公開するとともに、事業所内にも掲示している。	引き続き、掲示の仕方を工夫し、情報を分かりやすく発信していく。
	8	第三者による外部評価を行ない、評価結果を業務改善につなげているか		○	外部評価は現在行っていない。	実施については、今後検討していく。
適切な支援の提供	9	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		職員のスキルアップにつながるよう、園内研修を行ったり、外部研修にも積極的に参加している。	内部・外部研修に職員自らが積極的に参加し、専門性を高めていく。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		保護者のニーズを聞き、子どもの実態やニーズを多角的な視点から、情報収集-分析-プランにつながるようにしている。	今後も、保護者の方としっかりと話ができる時間をとり、保護者や子どものニーズをくみ取れる力や子どもの発達状況や特性を理解し、行動の分析ができるようスキルアップに努めていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個々の実態を把握するため、保護者からの聞き取り、独自のアセスメントシートにより、利用開始時にアセスメントを行っている。ニーズや変化があった時に、再アセスメントを行っている。フォーマルアセスメントは、他機関で行った検査結果を参考にしている。	子どもの実態を捉えられるよう、研鑽を積んでいく。
	12	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		本人支援については、アセスメントに基づき、具体的な目標設定を行っている。また、家庭でも取り組める視点を盛り込んでいる。	各支援ごとに分けた支援計画書にしているが、ガイドラインにある各支援の項目を意識し、支援目標に組み込んでいる。ニーズをもとに、その子の実態をふまえ、そのために今何を大切に支援していくのかを考え、具体的な支援計画をたてられるようにしていく。家庭や地域の中で取り組める内容を支援計画に取り入れていけるよう、職員で協議を行っていききたい。
	13	個別支援計画に沿った支援が行われている	○		職員の共通理解のもと行われている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	14	活動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの立案をチームで行っている	○		職員で協議の上、作成している。	年間計画、月案、日々のプログラムをわかりやすく表示し、職員で共有する。
	15	活動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑが固定化しないよう工夫している	○		造形活動等、季節に応じた活動を工夫している。遊具やおもちゃ等を定期的に入れ替えている。一人一人に合った課題や遊びが提供できるよう工夫している。	今後も、遊びを通して子ども発達を促していけるよう、遊具設定や活動の工夫を行っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、個別支援計画を作成している	○		ゲーム等の遊びを通して、小集団での活動を行っている。	子どもの発達状況に合わせて、遊びの中でやりとりの経験や設定場面での集団活動の機会を増やしていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、利用児の目標や支援のポイントを確認し、職員の役割分担を決めている。	やりとりの力をつけていけるためにも、子ども達が色々な職員と関わる事ができるように役割分担していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		療育終了後、記録を行うとともに、疑問に感じたことや気づいた点についてもすぐに報告し、話し合えるようにしている。	全体の場だけでなく、気付いた時に声を出していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育終了後、気づいたこと、保護者からの相談内容、次回行いたい課題の内容等記録している。関係機関とのやり取りも記録している。	その場になかった職員にも確実に情報が届くよう、メモを残し共有する。
	20	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月毎に保護者のニーズを聞き取り、見直している。保護者の相談・要望があった時は、随時対応をしている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議に参加後、全体で情報を共有している。	その場になかった職員にも確実に情報が届くよう、メモを残し共有する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて関係機関と連携をしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			・対象児がない	現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			・対象児がない	現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者・利用児の在籍している園からの要請があれば、必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	今後も随時対応していくとともに、相談支援専門員へ働きかけ、関係機関で方向性の確認の機会を持てるようにしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	今後も随時対応していくとともに、相談支援専門員へ働きかけ、継続した支援が可能になるように心がけていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	他のセンターや事業所とのつながりを広げ、助言や指導を受ける機会をもつよう意識する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	地域の幼稚園・保育所との並行通園をしている利用児が多く、交流する機会は基本的に設けていない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		担当者が参加している。	参加できるような体制を考えていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の療育の中で、子どもの活動時の様子や課題、成長が見られたこと等、話をする機会を持つようにしている。	話をした内容などを記録に残し、職員間でも共有できるようにする。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングの形はとっていないが、子どもの特性や見立て、家庭での対応について伝えるようにしている。保護者研修会を行い、発達や特性の理解を深めたり、行動への対応について学ぶ機会を設けている。	今後も、色々なことを伝えたり、話し合える機会をもっていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	○		契約時に、文書で説明を行っている。 改訂時には、文書と掲示等により通知している。	
	33	○		個別支援計画を見せながら、説明をしている。	専門用語を使わず、より分かりやすい伝え方ができるように努める。
	34	○		保護者の方に積極的に話しかける等、話をしやすい雰囲気を作るよう心がけている。 利用日以外でも相談対応を行っている。 すぐに回答できない場合は、事業所内で相談し、できる限り早く保護者の悩みに対応できるよう努めている。 助言をもとに、家庭でも実践して下さっている。	今後も、保護者が話をしやすい環境を作っていく。 また、適切な助言や支援が出来るように職員の専門性の向上を図っていく。
	35	○		年に3回、茶話会を開催している。話題カードを作り、保護者同士の会話がすすむよう工夫をした。	今後も、保護者同士のつながりが持てるような機会を提供していきたい。
	36	○		子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	
	37	○		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	
	38	○		個人情報取り扱いに十分注意している	
	39	○		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	引き続き、相手の方に配慮した支援を行う。
	40	○		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	今後も、市民センター内での催しに参加する。
非常時等の対応	41	○		マニュアルは掲示しており、年3回程度、広市民センター全体での避難訓練に参加している。訓練参加後、訓練内容を掲示している。 災害時の職員の役割分担も決めている。 怪我等が発生した際の連絡体制等は事務所に掲示している。	
	42	○		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	避難経路、役割分担等、事業所内で定期的に確認する機会を持つ。
	43	○		事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約時に確認。一覧にまとめ、職員全員で共有している。
	44	○		アレルギーのある子どもについては、医師の指示書に基づく対応がされている	アレルギーのある子どもには指示書を提出してもらっている。アレルギー表を作成して、誤飲のないよう気をつけている。 おやつ原材料等を保護者に確認の上、提供している。
	45	○		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハット事例が起こった時には、すぐに報告書を作成し、職員間で共有し、再発防止を図っている。 危険な箇所がないかを確認するようにしている。
	46	○		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	年1回、園全体で、全職員を対象に研修を行っている。 外部の虐待研修や接遇セミナー等に参加した際には、事業所内で報告をしたり、資料を回覧している。
	47	○		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	身体拘束についての共有意識は、職員研修で行っている。危険が伴う場面では、瞬間的に動きを止めることはあり、状況を保護者に報告している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。